

取組の方向性

① がん相談支援センターの周知

- がん患者等が退職を選択する前に、がん相談支援センターで相談が受けられるよう、国拠点病院及び都拠点病院等は、診断早期に主治医等の医療従事者から患者及び家族に対し、院内にがん相談支援センターがあることを提供する体制を整え、周知するとともに、都は、がん相談支援センターにおいて就労に関する相談が可能なことを、東京都がんポータルサイト等で周知していきます。

② 患者が働きながら治療が可能な医療提供体制の整備

- 患者の治療と仕事の両立を支援するため、医療機関等の実態や患者のニーズ等を把握した上で、希望する患者が、職場や自宅の近くで薬物療法などの治療を受けられる医療提供体制の整備を検討していきます。

③ 企業における就労継続のための環境づくりの促進

- 事業主は、がん患者の雇用の継続等に配慮するよう努めます。都は、企業や事業所が、柔軟な勤務体制や風土の醸成など、治療と仕事の両立が可能となる職場環境づくりの取組を進められるよう、ハンドブックや研修用教材の活用などを働きかけていきます。
- がんの発症等により休職した従業員を復職させ、就労継続に必要な支援を行う中小企業の事業主に対する雇用継続のための助成金制度を引き続き行っていきます。
- また、企業や事業所に対して、従業員の家族が、がん罹患した場合の介護休暇制度等の必要性について理解促進を図っていきます。

④ 患者自身の治療に関する正しい理解のための支援

- 患者が自身の治療内容や状態、治療計画等を職場に適切に伝えられるよう、医療機関における復職に向けた支援の充実を図るとともに、自身の状態を正しく伝えるためのツールの作成等を検討していきます。

⑤ 産業医への普及啓発等

- 企業や事業所が、がん罹患した従業員の治療と仕事の両立を支援するため、がん治療中の労働者への配慮に関する知識や、治療する病院との連携方法等について、東京都医師会等と連携して、産業医の理解促進や情報提供を行っていきます。

(2) 新規就職・再就職への支援

現状と課題

- 東京都がん患者調査及び東京都がん家族調査⁸⁸によると、がんと診断されたときに就労していた人のうち、退職はしたが、その後再就職している人は2.8%という状況です。また、がん罹患した家族の付き添い等のため、仕事を続けることが難しく、仕事を辞めた家族も10.2%います。

⁸⁸ 「東京都がん患者調査」は22ページ脚注19を、「東京都がん家族調査」は88ページ脚注87を参照

- 小児やAYA世代のがん患者は、就職の時期と治療期間が重なったり、晩期合併症⁸⁹や二次がん⁹⁰の発症の可能性があるため、治療後も医療機関における長期にわたるフォローや継続的な検査が必要です。また、社会的な自立ができていない場合もあり、就職を希望しても、困難な場合があります。
- 都では、治療と仕事の両立に配慮して、新たにがん患者を雇い入れ、就労継続に必要な支援を行う事業主に対し、奨励金を支給する制度を実施しています。

取組の方向性

① 患者に対する雇用機会の拡大

- 都は、がん患者を新たに雇い入れ、就労継続に必要な支援を行う事業主に対する採用奨励金を支給する制度を継続していきます。

② 患者の自立支援

- がん患者が、就職等の際に、必要に応じ、自身の治療内容や状態、治療計画等を、企業等に適切に伝えられるよう、東京都小児がん診療連携協議会（99ページ参照）等によるがん患者や経験者への勉強会の開催や、治療する医療機関における支援の充実を図るとともに、患者が自身の状態を正しく伝えるためのツールの作成等を検討していきます。

③ がん相談支援センターの周知

- 一部のがん相談支援センターでは、公共職業安定所に配置されている「就職支援ナビゲーター⁹¹」と連携し、がん患者の再就職の相談支援に取り組んでいます。また、国が設置する窓口において、働くことに悩みを抱えている若者の就労支援を行っています。就労を希望するがん患者や経験者及び家族が、このような窓口につながるよう、情報提供を行います。

(3) 都民や企業等の理解促進等

現状と課題

- がんの治療成績の向上や外来での治療の普及などにより、がんになっても治療しながら働くことが可能になってきましたが、企業や従業員、都民のがんに対する理解は十分とは言えません。

取組の方向性

① がんに関する正しい知識の普及啓発の推進

- 企業や従業員、都民に、がん患者の生存率は大きく向上していることや、がん

⁸⁹ 「晩期合併症」：26ページ脚注30参照

⁹⁰ 「二次がん」：抗がん剤や放射線による正常細胞の障害のために、治療を終えた数年から数十年後にもとの病気とは別の種類のがんや白血病を生じること。

⁹¹ 「就職支援ナビゲーター」：一部の公共職業安定所に配置されている、がん患者等の就職支援に対応する専門相談員のこと。

罹患しても早期に発見され、適切な治療がなされれば治るケースや、がんと共に生活し働くことができることなど、がんに関する正しい知識を対象者に応じて効果的に普及啓発していきます。

② 就労支援に関係する団体との連携促進

- 国や、就労支援に取り組む社会保険労務士会等の関係団体との連携により、都内全体でがん患者の就労支援を促進していきます。

- 独立行政法人労働者健康安全機構産業保健総合支援センター（以下「産業保健総合支援センター」という。）等において開催する経営者等への啓発セミナーや、国が今後作成するとしている医療機関向けの企業との連携のためのマニュアル、診断早期の離職防止のためのポスターやリーフレットを活用する取組など、国や関係団体が行う取組の周知を図っていきます。



企業における、がんに関与した従業員への治療と仕事の両立支援

がん患者が仕事を継続しながら治療を受けるためには、
企業による従業員への「**治療と仕事の両立支援**」が重要です。

企業による両立支援の取組には様々なものがあります。

- ・「時間単位の休暇制度」「時差勤務」「在宅勤務」などの柔軟な働き方の導入
- ・休職から復帰までの支援プログラムによる休職中の従業員のバックアップ
- ・相談窓口の設置や従業員が上司等に悩みを相談しやすい職場の風土づくり 等

従業員への主な効果	企業への主な効果
<ul style="list-style-type: none"> ・体調や治療の状況に応じた柔軟な勤務が可能 ・収入の減少や治療費の心配の緩和 ・生きがいの確保 	<ul style="list-style-type: none"> ・退職による経験、ノウハウの喪失の回避 ・働きやすい職場による優秀な人材の確保・定着、生産性の向上 ・企業評価の向上

治療技術の進歩により、がんは就労を継続しながら治療を受けることが可能な病気となりました。そのためには、がんを正しく理解し、従業員の通院への配慮や相談しやすい風土づくりを行うなど、企業による支援が求められています。

参考：がん患者の治療と仕事の両立を支援する企業への表彰

都では、両立支援に向けて優良な取組を行う企業を表彰し、取組の好事例を紹介してきました。表彰された企業は、右のロゴマークを使用できます。

【表彰企業及びその事例紹介（東京都がんポータルサイト内）】

http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/iryo/iryo_hoken/gan_portal/soudan/ryouritsu/kigyohyosyo/index.html



3 就労以外の社会的な問題への対応

現状と課題

- がんに罹患して治療を受けている都民は 15 万 4 千人⁹²と推計され、がんの治療成績の向上に伴い、がん経験者は増加しており、就労支援に留まらず、がん患者や経験者のQOL（生活の質）の向上に向けた取組が求められています。
- 国は、患者を取り巻く社会的な問題として、がんの治療による、脱毛、皮膚障害、爪の変化等の外見（アピアランス）の変化や、診療早期における生殖機能の温存、後遺症及び性生活（セクシャリティ）に関する相談支援並びに情報提供の体制が構築されていないこと等が指摘されているものの、十分な検討がなされていないとしています。
- また、国は、患者の自殺について、拠点病院等であっても相談体制等の十分な対策がなされていない状況にあることや、障害を抱えるがん患者について、罹患前から障害を持つ人だけでなく、がん治療によって障害を持つことになった人に関する課題等についても十分な検討がなされていないとしています。

取組の方向性

① ニーズに応じた適切な相談支援等

- がん相談支援センターにおける患者や家族への社会的な問題に関する情報提供や支援の実施状況等について、実態を把握し、支援の充実に向けた必要な取組を検討していきます。また、患者や都民等の正しい理解に向け、がんの治療による外見の変化や副作用等に関する情報を、東京都がんポータルサイト等で提供していきます。
- 国が今後検討するとしている患者の自殺防止に向けた介入のあり方や障害を持ったがん患者への対応等について、国の検討結果等を踏まえ、必要な取組を検討していきます。

4 情報提供の充実

現状と課題

- 患者及び家族の医療機関の選択や療養上の悩みの解決、都民のがんに対する正しい理解の促進に役立つよう、がんに関する各種の情報を集約し、「東京都がんポータルサイト」により提供しています。
- これまで、患者及び家族、都民がポータルサイトを活用して情報を入手しやすいよう、ポータルサイトのコンテンツの拡充など利便性の向上を図り、また、ポータルサイト自体の周知に取り組んできました。

⁹² 「患者調査（東京都集計結果報告）（平成 26 年）」（東京都福祉保健局）による。

○ しかし、東京都がん患者調査及び東京都がん家族調査⁹³によると、ポータルサイトを「知らない・わからない」と答えた患者が80.5%、家族は80.2%でした。また、がんに関する情報の収集方法として、「インターネット」と答えた人は、いずれも50%を超えています。

○ 国は、インターネット上のがんに関する情報について、「科学的根拠に基づいているとはいえない情報が含まれている」としており、「インターネット等を通じて行われる情報提供について、医療機関のウェブサイトの適正化を図るという観点から、医業等に係るウェブサイトの監視体制の強化に努める」としています。

○ また、がんに関する情報提供について、コミュニケーションに配慮が必要な人や日本語を母国語としていない人に対する、音声資料や点字資料等の普及や周知が十分ではありません。

東京都保健医療情報センターにおいて、外国人患者に対し医療機関の案内等について相談員が電話で対応する「外国語対応事業（医療情報サービス）」を実施しています。

取組の方向性

① 東京都がんポータルサイトの内容充実及び認知度の向上

○ 患者及び家族、都民にとって有益な情報に加え、拠点病院等の医療従事者やがん相談支援センターの相談員等、また地域の医療機関等が必要とする情報を集約し、分かりやすく発信していくため、東京都がんポータルサイトの内容の充実を図っていきます。

○ 医療機関や関係団体等の協力を得て、それぞれのホームページに、ポータルサイトへのリンク（バナー）の貼付を働きかけるなど、アクセス機会の拡充や効果的な周知方法の検討を行っていきます。

② がんに関する正しい情報等の提供

○ 患者及び家族並びに都民が正しいがんに関する情報を入手し、適切に医療機関の選択や療養上の悩みの解決等ができるよう、東京都がんポータルサイトで、科学的根拠に基づく信頼性の高い情報を提供していきます。

○ 国は、インターネット等を通じて行われる情報提供について、医業等に係るウェブサイトの監視体制の強化に努めるとともに、適正化の取組を踏まえて、注意喚起を行うとしており、国の動向を踏まえ、ポータルサイトにおいて、注意喚起等を行っていきます。

○ また、今後、国及び国立がん研究センターが作成するとしている、コミュニケーションに配慮が必要な人や日本語を母国語としていない人に対する音声資料や点字資料等の普及に努めるとともに、ウェブサイトである東京都医療機関案内サービス“ひまわり”の多言語化の充実に取り組んでいきます。

⁹³ 「東京都がん患者調査」は22ページ脚注19を、「東京都がん家族調査」は88ページ脚注87を参照

【指 標】

指標	現行値	目標値	出典
「がん相談支援センターを今後も利用したい」と回答した患者の割合	63.3% (平成 28 年度)	増やす	東京都 がん患者調査
がん相談支援センターの認知度（「利用したことがある」「病院内にあることは知っている」と回答した患者・家族の割合）	患者：67.4% 家族：63.1% (平成 28 年度)	増やす	東京都がん患者 調査・東京都が ん家族調査
がん相談支援センターに相談したことのある者の割合	患者：8.8% 家族：7.6% (平成 28 年度)	増やす	東京都がん患者 調査・東京都が ん家族調査
がん罹患後も就労継続している患者の割合	53.7% (平成 28 年度)	増やす	東京都 がん患者調査
患者の付き添い等のために仕事を辞めた家族の割合	10.2% (平成 28 年度)	減らす	東京都 がん患者調査
「がんになっても治療しながら働くことは可能である」との設問に「そう思う」「多少思う」と回答した都民の割合	67.1% (平成 28 年度)	増やす	都民意識調査
「がんは治る病気である」の設問に「そう思う」「多少思う」と回答した都民の割合	68.1% (平成 28 年度)	増やす	都民意識調査
東京都がんポータルサイトの閲覧数	240,861 (平成 28 年度)	増やす	



がんについては「東京都がんポータルサイト」をご覧ください！

がん患者及び家族の医療機関の選択や、療養上の悩みの解決に役立つよう、がんに関する各種の情報を集約し、わかりやすく紹介しています。

http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/iryo/iryo_hoken/gan_portal/

がんの治療って？

家や職場の近くで治療できる病院は？

生活や医療費のことを相談できる窓口は？

それぞれの病院の特徴は？



主な掲載内容

- ①お知らせ（報道発表・イベントなど）
- ②がんについて知る・調べる
- ③病院を探す
- ④がんと向き合う・相談する
- ⑤治療・療養に役立つ情報
- ⑥医療従事者向けの情報
- ⑦がんと予防する・検診を受ける

※予防・検診については「とうきょう健康ステーション」をご覧ください！

<http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/kensui/>



主な掲載内容

- 受けよう！がん検診
 - ・がんを予防するためには
 - ・がん検診について
 - ・がん検診の統計データ
 - ・職場のがん検診受診率を上げたい方へ
- など

※「とうきょう健康ステーション」では、がん以外の生活習慣病の発症・重症化予防や、生活習慣の改善に関する情報もご紹介しています！